

看護いばらき



社団法人
茨城県看護協会
Ibaraki Nursing Association

No.96
2012年1月20日



凍結した袋田の滝

CONTENTS

- ◆新年のごあいさつ…………… P 2～3
- ◆平成23年度茨城県看護研究学会…………… P 4～5
- ◆辰年 年男・年女あつまれ…………… P 6
- ◆そよかぜ 私の専門～認定看護師 …… P 7
- ◆ザ・シリーズ地域連携～訪問看護～…………… P 8
- ◆私の職場…………… P 9
- ◆事務局からのお知らせ…………… P 9
- ◆輝け！ナースマン…………… P10～11
- ◆事務局紹介…………… P 12



謹 賀

看護の未来に

会長 村田 昌子

年頭にあたりごあいさつ申し上げます。

会員の皆様には、ご家族お揃いで新しい年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

23年は私たちが経験したことのない東日本大震災に見舞われ、県内に多くの被害をもたらしました。徐々に復興されているとはいえ、福島原子力発電所事故の影響による被曝の不安や風評被害の問題等々、住民の不安は払拭できておりません。23年の漢字に「絆」が選ばれました。国民の多くの思いが、この漢字に込められているのではないでしょうか。

このような時代ですが、看護協会は1万2千人を超える会員の皆様のご理解・ご協力により大きく羽ばたこうとしています。23年度重点事業として掲げた「公益社団法人への円滑な移行」「看護研修センター拡張・整備」「魅力ある職場環境づくり」「安定的な訪問看護サービス提供体制」について、着実に準備が進められております。24年はこれら事業に色付けをする年と考えています。

大きく変化する社会・医療・看護のいま、これら潮流にいかにもスピードをもった的確に対応していくかが問われております。協会一丸となって取り組む覚悟ですので、皆様の一層のご支援、ご協力を頂きますようお願いいたします。

本年が皆様にとって良き年でありますようにお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。

新年

広がる夢

専務理事 太布 和子

新年明けましておめでとうございます。

忘れることなどできない「東日本大震災」を経験し、日常の普通のこと一つ一つが大切で、幸せなことだと改めて感じた日々でした。

本年は、看護研修センターが改修・拡充され、5月の連休明けには会員の皆さまにお披露目できることでしょう。また、新規事業（看護教員養成講習会・訪問看護ステーション設立・複合型小規模多機能型居宅介護事業等）目白押しです。

いつも、迷い・つまずきながら歩を進めていますが、その場を心から楽しみ努めたいと思います。どうぞ会員の皆さまの更なるお力添えをお願い申し上げます。

病院から在宅に継続的に支援できる専門職を目指して

常任理事 青山 千代子

日頃より、看護の質向上のためには、看護職が自ら学び自立する専門職集団でありたいと考えます。

ここ数年、超高齢化が進むなか、療養の場が病院から在宅、地域へと拡大しています。看護職はあらゆる健康の段階をアセスメントできる力が必要とされ、多職種と連携する体制づくりが課題です。

研修部門では、24年度、医療機関、福祉施設、在宅と幅広い分野に対応できる看護の専門職業人としてのキャリア形成を支援して参ります。

また、看護協会の重点事業の一つとして、看護師等の「雇用の質」向上に向けた労働環境改善への取り組みがあります。看護職が多様な働き方を柔軟に取り入れられるように、情報を細やかに提供していきたいと思えます。

皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

空に登る龍のように

常任理事 小角 和子

「雇用の質の確保」に向けて茨城県労働局の活動に協会も参画し、すべての看護職がそれぞれの職場で輝いて専門性が発揮できるようさらなる支援を進めてまいります。看護職が働き続けられる「魅力ある職場環境づくり支援事業」も進めており、多くの皆様に活用していただけるよう努力してまいります。

また、協会別館に協会立3ヶ所目の「県央地区（仮称）訪問看護ステーション」4月開設に向け、地域の支えとなるための準備を進めております。

いずれの事業も会員の皆様の協力があって実りにつながると考えております。昨年の未曾有の災害を乗り越え、新しい年の第一歩を皆様と力を合わせて踏み出したいと思えます。

平成23年度 茨城県看護研究学会

第15回茨城県総合リハビリテーションケア学会学術集会 ～チームで取り組む在宅療養～

平成23年12月10日 会場：つくば国際会議場 参加者：566名



平成23年度は、茨城県看護研究学会と茨城県総合リハビリテーションケア学会学術集会の合同開催となり、看護協会が担当で準備にあたりました。

今、医療・看護を取り巻く環境は大きく変化し、医療・看護の提供体制のあり方が最優先課題となっています。

開催にあたり、村田大会長は『在院日数短縮化等により、重症者の在宅療養や看取りを24時間365日安定的に支える、地域医療の体制整備は急務です。来年の診療報酬、介護報酬の同時改定でも超高齢社会を見据えた、在宅看取り体制の整備や在宅療養に対する支援の推進が期待されます。このような情勢を踏まえて「チームで取り組む在宅療養」をテーマに掲げました』と話されました。

テーマに沿った特別講演が企画され、申し込み演題は総数67題、看護研究部門42題、リハビリテーションケア部門25題でした。発表はそれぞれの職種に共通したテーマで群分けされ、職種をこえて意見交換が行われていました。

お互いに知見を深めあい、連携につながり「チームで取り組む」目的を共有できた学会でした。



特別講演

「在宅チーム医療の新たな展開」

医療法人アスムス理事長・おやま城北クリニック院長
太田 秀樹先生



太田先生は「医師と患者が信頼関係を築けるような医療がしたい」という思いから、在宅医療に取り組まれたそうです。栃木県で取り組んでいる在宅医療の現状と、地域で実践してきた事例をたくさんお話し頂きました。

ユーモアのある話し方で講演は楽しく、スライドで示された地域の人々の笑顔から、先生が地域の人々をいかに大事にしているかという思いが伝わってきました。その人らしい生活を支えることの大切さを改めて感じました。先生の夢は「在宅を通して地域を創る」ことだそうです。

私たちが先生のようにQOLを支えられる看護の実践者でありたいと思いました。

ランチョンセミナー

「地域に根ざすホスピタブルデザイン」

筑波大学大学院人間総合科学研究科

芸術専攻 教授 蓮見 孝先生
大学院生 高嶋 結さん

蓮見先生はグッドデザイン賞審査員をはじめ茨城県内を中心に、さまざまなプロジェクトに関わっています。

先生にはホスピタブルデザインの魅力と実践している活動についてお話し頂きました。高嶋結さんは蓮見教室博士課程2年生です。海外でのすぐれた事例を、調査の結果から紹介して頂きました。皆さん、特に海外の病院環境について、関心が高かったようです。

ランチョンセミナーの試みも好評でした。



口演発表

39演題が発表されました。

- | | |
|------|---------------------|
| 第1群 | 災害看護 |
| 第2群 | リハビリテーション・
チームケア |
| 第3群 | 食支援 |
| 第4群 | 地域ケア・退院・在宅支援 |
| 第9群 | クリティカルケア |
| 第10群 | 慢性・終末期ケア |



示説発表

28演題が発表されました。

- | | |
|-----|-----------|
| 第5群 | ケアの質 |
| 第6群 | 母子へのケア |
| 第7群 | リハビリテーション |
| 第8群 | 管理・教育 |



トークショー

災害支援活動の展開

～災害の現場で私たちができること～

座長 筑波大学附属病院 安田 貢先生

パネリスト 6名

ソーシャルワーカー	飯島 望
看護師	古宮 信雄
歯科医師	関 実
薬剤師	高野 真
作業療法士	高堀 康裕
言語聴覚士	吉田真由美



6名のパネリストが、各々の立場で震災の現場で活動したこと、課題に感じたことについて発表しました。発表は災害発生時、自分たちに出来た事は何か、またどのような事が問題であったのか、状況が伝わってくる内容でした。

2011年3月11日の震災以来、半年以上を経てもまだ災害は収束したとは言い難い状況です。会場からの意見も含め、今後、震災に備えること、窮地に際して何をどう実行していくべきか等、専門職としての災害支援活動のあり方が議論されたトークショーでした。

パネリストの皆様お疲れ様でした。

参加者の声

- ☆太田先生の特別講演の、在宅医療の現状について、とても印象深かった。
- ☆今年から看護師になった。学校の授業では在宅看護の授業も実習も1クール。太田先生のお話から、その人らしい生活、よりよい生活ができるように支える看護は素晴らしいと思った。新人で、業務を覚えることに必死で自分のケアを振り返る余裕がなかったが、一日でも早く先生のように生活を支えられるようになりたい。
- ☆研究発表で看護の実践の場面についてきくことができ、リアリティーがあった。
- ☆来年の卒論の参考になってよかった。
- ☆ホスピタブルデザインの講演で今までの病院のイメージを変える新たな取り組みを知ることができた。
- ☆病院の中にデザインを取り込むという発想に新鮮さを感じた。
- ☆それぞれの立場で震災活動を展開したトークショーは、茨城県内の状況がわかり、かなり興味を持って参加できた。震災から9カ月たつがまだまだ復興途中であり、今後も継続して取り上げていただけることを希望する。
- ☆毎年参加しているが、今年はリハビリと合同で会場も広く、見やすくて良かった。



辰年 年男・年女 あつまれ！！



2012年の干支は辰（たつ）です。十二支の5番目に数えられる動物です。龍は伝説の生き物と言われ、古来は権力者の象徴として扱われたようです。

さて、干支から見る「たつ」の性格は…。

「強靱な生命力と持久力の持ち主。また、負けず嫌いで、努力を惜しまない、リーダー的タイプ」さあ、皆さんはどのタイプでしょうか？

看護の原点に戻り、患者様のことはにきまします。また、美容と健康のために、自転車通勤で頑張ります。



古河赤十字病院
印出 恵子

患者さんが元気になれるように今年も優しく笑顔で看護したいです。また、多くのことを学べるよう頑張りたいです。



牛久愛和総合病院
倉田 陽奈

昨年10月、病棟からOP室へ異動となりました。今は見るものが全てが新鮮で、毎日勉強です。今年からはOP室全般の業務をこなせるよう努力していきたいです。



水戸中央病院
松浦 浩之

呼吸器病棟に配属され3年目となります。さらに専門的知識を深め、実践をおして患者さんのケアに活かしていくとともに、後輩の指導に力を入れていきたい。



国立病院機構
茨城東病院
大貫 恵

近年の高齢化により高齢者の行き場が困難な時代。そこで、もっと病院と在宅医療の連携がとれ、暮らしも安心できるように橋渡しをしていきたいと思います。



つくば双愛病院
丘野 邦子

そよかせ

私の専門 ～認定看護師～



手術看護ってなに？

手術看護

鹿島労災病院
藤代 陽子

手術はチームワークが大切です。患者さんを中心に、医師・看護師・コメディカルが協力し医療を提供しています。手術看護は、手術室での患者さんの安楽を考え、侵襲を最小限にするために看護を実践する分野です。

現在、手術看護認定看護師として、看護実践の中での指導や根拠に基づいた看護を行うための勉強会や、医師や手術室スタッフとともに様々な検討会を行い、安全な手術看護の実践につなげるとともに、病棟や外来との連携を強化し、周術期の看護の向上を目指しています。手術室というと敷居が高いと感じている看護師は多いと思います。茨城県では、まだ手術看護認定看護師は1名です。多くの手術看護認定看護師が誕生し、手術看護を支える看護師が増えることを願っています。

摂食・嚥下 障害看護



摂食・嚥下障害看護認定看護師になった理由

つくばセントラル病院
古田 良恵

「なんでケロケロ吐くの!! あんたなんかミルクあげない!!」17年前、1648gで生まれ体重が増えない娘について出た言葉でした。その後の私は、娘の体重が増えることを望み経鼻経管栄養を選びました。しかし、人間らしく口から食べて欲しいと昭和大学病院小児科摂食機能療法外来に通い始め、1年後には、カレーライスを食べられるようになりました。この恩を返したいと飛び込んだ、摂食・嚥下障害看護への道。現在私は、回復期リハ病棟での実践、週1回の嚥下回診において看護師に対する指導や、地域での食形態の統一に向けた相談等に取り組んでいます。今後も患者・家族に寄り添い、皆が食べる喜びを続けられるように活動の幅を広げたいと思います。



ザ・シリーズ

地域連携～訪問看護～

地域に根差した訪問看護を目指して

水郷医師会訪問看護ステーション 五十嵐 いつ子

ステーションデータ

平成7年12月に開設。行方郡医師会が休日診療所をしていた場所に、地域の必要に迫られて看護師4人を中心に訪問看護を開設しました。その後市町村合併があり、行方市に水郷医師会訪問看護ステーションとして現在に至ります。

スタッフは看護師6名、事務職2名、介護支援専門員が兼務で2名となり、24時間連絡対応体制で支援をしています。



私たちのステーションの所在地行方市は、平成17年9月に麻生町・玉造町・北浦村が合併してできました。行方市が誕生して7年が経過し、現在の高齢化率は27.2%という状況にあります。今後（平成26年）は30%を超え、3人に一人が高齢者という超高齢社会を迎えることが予想されています。

行方市総合計画では「やさしさあふれる健康福祉のまち」を掲げ、市民が生涯にわたり心と体の健康増進に取り組み、高齢者や障害者などを地域で見守り、市民の一人一人がお互いに支えあい、生きがいを持って暮らせる地域社会



の形成をめざし、医療と介護・看護の連携や介護サービスの基盤整備が急がれています。私たちも地域の方々のニーズに応じて必要な時に迅速に対応できる訪問看護ステーションを目指して頑張っていきたいと思います。





「教え育てることで、自分が学び成長する」

白十字看護専門学校 副学校長 堤 朝子

「学生はどう考えているのだろう。どこがわからないのだろう。どう指導すればいいのだろう。どうすることが一番いいのだろう。こういう風に指導したけどよかったのだろうか。」など、事あるごとに必ず、教員の誰かから声があがっています。学生と向き合うことで教員自身がふりかえり、そして仲間とともに考え、またそれぞれが自分を見つめ直します。そうして私達自身、学生を教え育てることで、学び成長させてもらっているといつも感じています。毎日、愛情いっぱい、チームワーク&フットワーク良く学生とかがわっています。学生には看護の魅力を感じてもらいたい。そう願っています。



19回生 戴帽式 灯火の儀



19回生 放課後

事務局からのお知らせ

第48回いばらき看護の祭典

期 日 平成24年5月12日(土)
場 所 つくば国際会議場

平成24年度

茨城県看護協会通常総会

期 日 平成24年6月15日(金)
場 所 水戸プラザホテル

平成24年度

日本看護協会通常総会 全国職能別交流集会

期 日 平成24年6月5日(火)
~7日(水)
場 所 幕張メッセ(千葉県千葉市)

第43回日本看護学会

-成人看護II-学術集会

期 日 平成24年11月6日(火)
~7日(水)
場 所 つくば国際会議場



輝け

急性期看護の面白さを伝えるために

筑波大学附属病院 副看護部長 卯野木 健



特にこれといった動機も無くなんとなく看護大学に進学しました。大学でもそれほど面白いと思わず卒業し、なんとなく都内の救命救急センターで働き始めました。そこで救急外来、集中治療室を経験し、急性期看護の面白さに目覚めました。特に3年目のとき、人工呼吸だけではとても酸素化を維持できないARDSの患者さんを担当した際、体位を工夫することで酸素化を改善できたことがとても印象的で、それから人工呼吸中の患者の看護にとっても興味を持つようになりました。ICUでは看護がないと言われることがありますが、話せない患者が多いからこそ、じっくり観察し、患者の体から発するサインを見逃さない、「見守り」という看護の基本を行うことができます。そして、とても見えにくいのですが、私たちが行う関わりひとつで、患者は良くもなり、悪くもなります。このような急性期看護の面白さを追求し、その成果を如何に表し、スタッフのモチベーションに繋げるかが今の私のテーマです。春と秋の休日は黒鯛を釣りに行くことが趣味だったので、最近は行けていません。今年こそは行けますように。

白衣の戦士を目指して

総合病院土浦協同病院 看護師長 青木 建二



闘病生活に苦しんでいた祖父を見て「俺がじいちゃんを助けてやる」その思いから看護師を目指しました。実際の現場は「困難、落ち込み、打ち砕かれる」ことが多く・・・しかしその中でも医療の中心を担う看護師にやりがいと、プライドを持ち8年経った今も毎日奮闘しています。

一番の思い出は火傷の小児を朝まで抱き寝かせたことです。「こんな俺も役にたつな(苦笑)なんかヒーローになれた気がする」些細な力すら必要としている患者に笑顔で対応できるよう心がける。人として成長できた瞬間でした。

プライベートは除草作業(ゴルフ)でリフレッシュ。多くの仲間と大声で遊び、会話をし、貪欲に人間の幅を広げています。

白衣の戦士を目指して

昨年1月から始まる「マン」も今回で4性の中で働く素敵紹介してくださいるはず☆

ナースマン



私のリフレッシュ

総合守谷第一病院 高橋 遣人

私は卒後4年目の看護師です。入職から約半年間病棟勤務をし、その後手術室へ異動となり3年が経ちました。

今の職場にはとてもやりがいを感じています。全身麻酔で手術を受ける患者様が手術室内で意識のある時間はわずかですが、後日院内等で会った際に「手術の時はありがとう。」と言われるととてもうれしくなります。緊急手術もあり、生命の危機に晒されている患者様の手術等緊張感の高まる場面もありますが、頼もしい仲間と協力しながら乗り越えています。

週末の休みには趣味の釣りに行き、自然の中でゆっくりとした時間を過ごすことでリフレッシュして仕事に向き合っています。



「まだ、まだ！これから」

やすらぎの丘温泉病院付属安良川クリニック 宮内 徹

縁あって医療機関に入職し、他の職種で働いていましたが、資格をとることで看護師(当時は看護士)になりました。三十数年前です。まだ、世間では看護士という認識が薄く、職場も精神科病院以外ほとんどない時代でした。若いころは救急の現場で働きたいと思うことが多かったのですが振り返れば「良かった」と思っています。

高齢者中心の病院での経験が長かったので、人の死というものに接する機会が多くありました。そのため様々な最期を見てきました。現在、訪問診療への同行と訪問看護をしておりターミナルの方々を見る機会もあります。その人らしく、本人の望むような最期を迎えるのに少しでもサポートできたらと思います。また、入院生活と異なり、在宅での生き生きした姿を見ると大きな違いに在宅医療の大切さを感じる日々です。

若いころは野球をする事が好きでしたので、子どもの成長と共に少年団の指導者として野球に関わってきました。現在は、職場の仲間を中心に定期的にゴルフに行っています。スポーツをすることはとても良いことです。また、3歳の孫と遊ぶことでとてもリフレッシュ出来ています。



った「輝け!! ナース
回目です。多くの女
なナースマンをぜひ
。きっと、輝いてい



事務局紹介



事務局紹介は最終回となります。今回は3つのグループを紹介いたします。

政策企画

協会の事業企画や県・関係団体への要望、新公益法人に向けた手続きや諸規定の整備などを担当しています。

保健医療を取り巻く環境が激変する中で、協会が必要な政策の提言や事業を展開できるよう微力ながら頑張ります。ご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。
真木



茨城県看護協会は、本年度、公益社団法人を目指した組織改革という節目の年を迎えます。自ら考え行動できる自律した組織の確立に向け、人材力の向上を軸とした組織力強化に、覚悟と真摯さを持って取り組みます。
木村

訪問看護

「訪問看護師養成講習会」など訪問看護に関する研修のほか「訪問看護相談業務」また、現在は県央地区の協会立訪問看護ステーションの立ち上げの準備も行っています。

訪問看護研修担当の**村上**です。皆様が心地よく、充実して学べるようお手伝いさせていただきます。たくさんの方に研修を受けて頂きたいと思っています!! よろしくお願ひいたします。



訪問看護グループの**仲根**です。訪問看護に関する総合相談窓口の担当と、県央地区の協会立訪問看護ステーションの立ち上げに取り組んでいます。よろしくお願ひ致します。

誰もが住み慣れた我家で、いつも通りの自分の暮らしが続けられるよう、皆様に喜ばれる訪問看護サービスの提供を目指して準備を進めています。在宅を支える役割の一つとして地域貢献できるよう努めます。
常任理事 小角 和子

訪問看護サポートセンターとして、訪問看護の推進。また、本年は協会立の小規模多機能型居宅介護事業『複合型』の開設準備を進めています。地域の方々が安心して利用できる資源となるよう努力してまいります。
若松

母子保健センター



茨城県の委託を受けて、乳幼児の心身面や発達障害に関する相談・個別指導を行っています。子育ての中での不安や悩みに、小児科医師や心理専門員が対応しています。看護職者として相談者が安心して相談できるよう信頼関係の確立に努めています。
山口

広報委員会より

募集

「看護いばらき」の表紙を飾る、写真・絵・イラストを募集します。作品は茨城県にちなんだものに限りません。あなたの作品が選ばれるかも!? どしどしご応募下さ〜い!!

編集後記

みなさん今年の目標は立てられましたか。今年はこれまで以上に充実した紙面を目指しますので「看護いばらき」の企画にぜひご協力下さい。

広報委員一同

